

平成28年度 生駒市子ども読書活動連絡調整会議

市内学校図書館視察記録（要約）

日 時： 平成28年12月13日（火）午前9時30分から

場 所： 生駒市立生駒小学校

目 的： 幼稚園年長児の就学前学校図書館訪問の様子を見学し、新入生を迎えるために学校図書館・学校司書にどんなことができるか考える。

*市内の公立、私立幼稚園、保育園には、事前に就学前交流についてのアンケートを実施。会議上での参考資料とした。

【参加者】 平井富久子、森田桂子、莞牟田一美、山中賢司、新土和美、樋田良恵
(欠席) 岩崎れい、森岡伸枝、藤原康成、辻中伸弘、吉川祐一

【学校図書館司書】 鄭(ちよん) 典子

【事務局】 向田真理子、中谷知子、錦好見、平澤佐千代、清水淳子、廣松典子

生駒市立生駒小学校図書室

◎生駒幼稚園年長組の学校図書館訪問の様子

○高学年図書室見学

校長先生の誘導で3階の高学年図書室へ向かう。広くて蔵書の多い小学校の図書室を通り抜ける時、見上げるようにしながら書架に並ぶ本に目を向けている。高学年図書室は、入学後すぐに利用するわけではないが、部屋の雰囲気を見ることで小学校への憧れと期待感が高まるだろう。

○低学年図書室で学校司書による詩の朗読、絵本の読み聞かせと手遊びの時間

小さな手作り人形の小道具を使って読み聞かせの時間へ導入し、絵本は幼稚園でも楽しんでいるものを選び、小学校にも大好きな絵本があるということで、子どもたちの入学前の緊張感をほぐすプログラムが工夫されている。

その後、書架を巡って自由読書の時間。数人のグループで知っている本を探したり、一人で黙々と興味のある本を読む等、本を見る、読むことは子どもにとって自由で伸びやかな時間になっているようだった。幼稚園で日常の中にある「絵本」が、小学校にもあるのだという日常のつながりが、子どもたちをリラックスさせる要素になっているようだ。

◎幼稚園との就学前交流について【山中校長より】

5年生といっしょの給食体験、1年生がドングリで作ったおもちゃやひつつきむしで作った釣竿などで遊べる部屋を設置して園児を招待する「あきあきランド」という遊びの交流、運動会の練習見学、6年生を送る会など、いろいろな交流を行っている。園児が馴染みやすいものから始めている。平成27年度から、今日見てもら

ったような図書室を使った交流も始めた。これは、園長先生からの熱心な要望がきっかけだった。学校司書がいてくれることで、こういう見学プログラムが組める。また、入学後も図書の時間等では、低、中学年の教諭が学校図書室を活用していて、子どもの成長に合わせて学校司書がフォローしてくれている。

自分の体験、教職経験を通して、読書が子どもの成長を助ける豊かな時間になると考えているので、少しでも本と出会う時間やきっかけを作ってやりたいと、全校朝礼や学校だよりで本を紹介している。すると、昼休みに何人かが「校長先生が紹介した本を読みたい」と図書室に借りに来てくれるそうで、図書室への距離を縮めるのに、少し役立っているかなと感じる。

◎学校図書館の活用について【鄭学校司書より】

○図書室と学校司書の活動

- ・ 1、2年生は「低学年図書室」を利用する。貸出も低学年図書室棚の本しか借りられない。利用の限定はせっきくの小学校の蔵書を部分的にしか利用できないという制限、不便さがあるように思われるかもしれないが、2部屋あるという環境を前提に考えると一概にデメリットとは言えない。どちらでも借りられるようにしたら、子ども自身がどちらで借りたかわからなくなる。「3年生になったら、大きな図書室に行ける」と、待つことも大切。

3年生以上になると「高学年図書室」を利用する。どちらの年齢でも読める本は両方に置いている。

- ・ 夏休み、冬休みの長期休みや読書週間には貸出冊数を1冊から2冊に増やす。
- ・ 学校司書は週2日勤務。1、2年生は、1回/週の図書の時間(45分)があり、おはなし会(15分~20分程度)を実施。

1、2年生の間は、本を開いたら楽しいことがあるということを知ってもらいたい。そうすることで、3年生になり本から離れてしまうことがあっても、いつか本に戻って来てくれるのではないかと思っている。

楽しいと感じてもらうために、言葉遊びから言葉の楽しさを知ってもらい、季節感を感じられるもの、身の回りのものや昔話の読み聞かせなどを行っている。また、雑誌「かがくのとも」などから驚きを体験してもらい、それが調べ学習につながればと思っている。

1、2年生は本に親しんでくれているが、3年生以上になると本の好き嫌いが分かれてくる。本格的な読書へ繋げるのが課題。また、高学年になるとおはなし会の回数が少なくなる。出勤日数から考えても、全学年へのフォローは難しいのが現状。

高学年と低学年の時間が重なった時は、20分ずつ前半後半にわけておはなしの時間を実施する。先生が読み聞かせをしてくれることもある。

- ・ 幼稚園で読んでもらっているその絵本が小学校にもあるということを園児が知ることでも、就学前に図書室見学を実施する意義があると感じている。しかし、

出勤日数が限られているため、見学を受け入れると、その分、在校生の通常の図書の時間やおはなし会の時間を削ることになってしまう。

- ・幼稚園年長時代の小学校図書室見学について1年生にインタビューしてみた。クラスの半分くらいが、生駒幼稚園からきた児童。見学のことを覚えているか聞いたところ、どのクラスも12人中9人くらいは見学のことを覚えていた。読んだ絵本までは覚えていなかったが、「あの時はこの本を読んだ」と見せると思いだし、「もう一回読んで」とせがまれた。

○ボランティアと学校司書との関係

- ・朝読で読む本の紹介を頼まれたところから始まって、現在は年一回勉強会をするようになった。

○ボランティアについて

- ・読み聞かせボランティアグループ「としょックス」が活動を始めて16年になる。メンバーは常時20名くらい。
- ・木曜日の中休みには、低学年図書室で読み聞かせタイムを設けている。校長先生、教頭先生も「としょックス」タイムの特別ゲストで読み聞かせを担当することがある。
- ・水曜日には、朝の10分読み聞かせ（各教室）
- ・子ども読書の日（4月）、夏休み（7月）、干支の本（12月）に本紹介の刷り物を作成、配布。
- ・1年生へ1時間使って干支にちなんだおはなし、読み聞かせの時間をもらっている。図書室にある本は用意し、未所蔵のものは育友会で購入する等、できる限り子どもにとって身近な各教室に設置し、その後は図書室でも展示
- ・修理・環境ボランティア（本の修理・図書室の飾り付け）や貸出・返却ボランティア（図書委員と共に）の活動もあるが、これらは図書室の電子化と併せて始まった。修理ボランティアの発足については、公共図書館から講師を招き修理講習会を実施した。

◎参加者の感想等

- ・環境が充実している。本が見やすく、たくさんあった。
- ・保育園、幼稚園への就学前の小学校との交流状況についてのアンケートを見ると、交流したくても難しいという意見があったが、ぜひやってもらいたい。自分の子どもは、保育園にいていて、そこからは地域の小学校へいかなかったもので、就学前交流にいけなかったが、行った子達は楽しそうだった。

- ・事前アンケートを実施した際に一、

「保育園は、幼稚園と違って校区園児の在籍とはいえないが、就学前の緊張と不安を抱える子どもたちにとって、“学校というところ”を知るだけでも非常に大きな助けになる。」

というご意見があった。子どもたちの身近にいるからこそその実感がこもっていた。

校区を意識する必要はないのかもしれない。

- ・桜ヶ丘小学校と交流している。小学校が広くて大きなところというところで、憧れを持つ。保育園の子ども達の住む地域がばらばらという難しさはある。保育園は部屋が足りなくて図書室を作ることにはできず、絵本は各部屋に置いている。一日を保育園で過ごす子ども達にとって絵本はとても役立っている。
- ・小学校と交流を行っている。園児たちに「小学校にいったら何をしたいか」と聞くと、幼稚園の子が来たら優しくしたいと言っていた。幼稚園では、年間 20 回、絵本の貸し出しをしている。借りる本は親子で選んでもらっている。低学年図書室を見て分類の仕方など勉強になった。
- ・図書室の分類は十進分類法を使っている。これは、公共図書館でも同じなので、子ども達の成長に合わせて広がる図書館利用のためにはこういう法則が継続されていることは好ましい。
- ・絵本の読み聞かせも年間 20 回程度行って、保護者は子どものクラスに入る。「お母さんが読みにきて」という子どもの声でボランティアが増えてきた。同じ本を何回読んでも、読み手が違えば違ったものになる。絵本を貸出すると、下に小さい子がいて絵本が破れたり、落書きがあったりと貸出をすることを迷ったりもするが、それも絵本が好きだからだと発想を変えていかなければならない。
- ・今日のおはなし会で、詩を読んでいたが、保育園でも詩をみんなで唱歌したりする。それだけで一体になれる。
- ・地域で縦の関係で遊ぶ機会が少ない。幼稚園では年長で一番大きかったのに、小学校へ行くと一番下になり、年下扱いされるということについての子どもの心の難しさなど、小1プロブレムの問題がある。
- ・読みたいと思える本が見やすく並べられている。
- ・図書室の雰囲気の本を読みたいと思わせてくれるもので、園児たちが抵抗なく本を読んでいた。それは、幼稚園で本に親しんでいたからだろう。
- ・学校司書の出勤日数が3日になれば、3年生へも1、2年と同じような読み聞かせをすることができるのではないか。
- ・先生方も一緒に読み聞かせを楽しみにしてくれていることが大切。国語の授業も担当するので、学校司書の読み聞かせを一緒に聞こうという意識でいるようだ。
- ・現在生駒市には 13 人の司書がいる。生駒小学校は、最初に司書導入された学校で、司書が入ることで、図書室が変わっていく様子がよくわかる。
- ・3、4年になると本から離れるというが、読みたい本が図書館にない。リクエストしても半年も待たされる。
- ・「太郎こおろぎ」「おくりおおかみ」の作者である今西祐行さんが生駒小学校に在籍しておられ、作品に読み込まれている。そういう地域の作家がいることを広く伝えてほしい。
- ・児童、保護者には、「学校だより」を通じて、小学校と今西祐行さんとのご縁を紹介している。